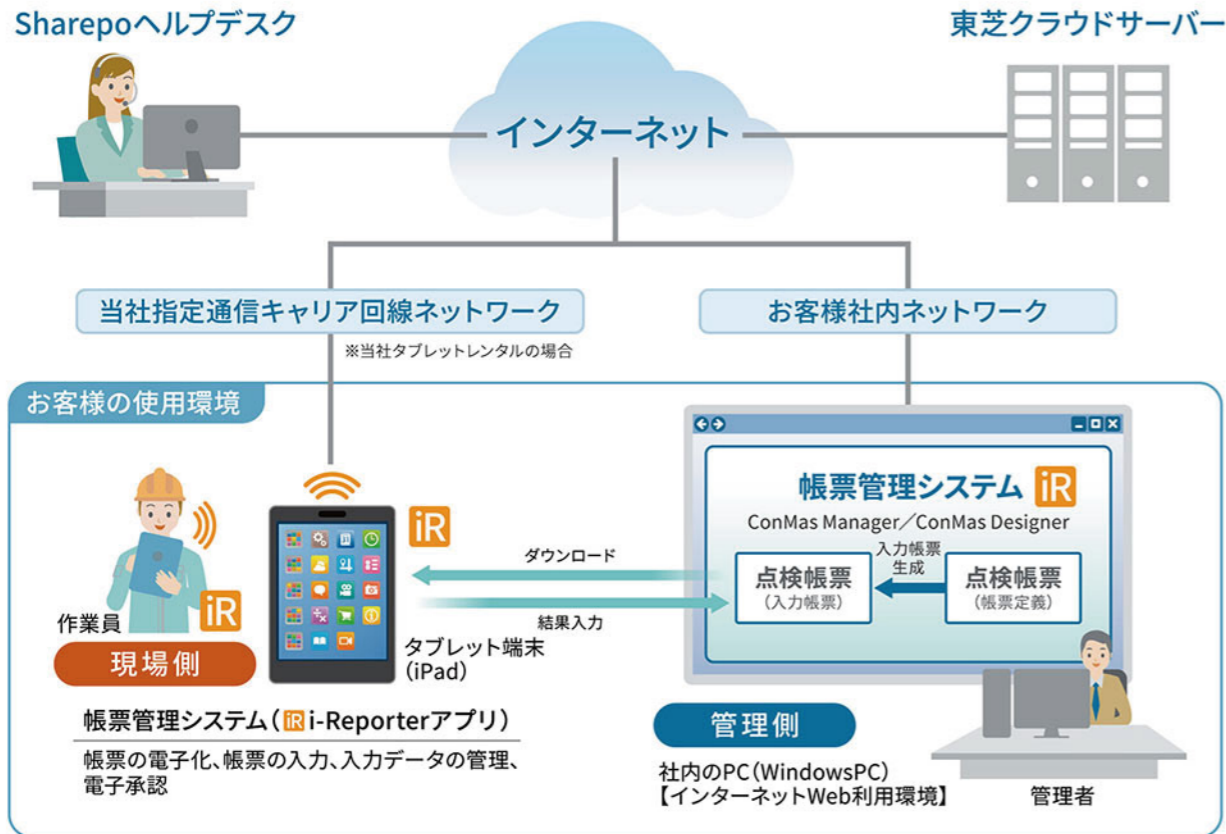


Sharepo™ 簡易版の導入イメージ

報告書のデジタル化により現場と本社をつなぎ、
ストレスなく効率的な報告業務を実現！

サービス構成イメージ



● iR: ライセンス

当社営業担当の声



ビルDX推進部 営業担当
主務 馬場 武

現場側、管理側、双方の悩みは「Sharepo」で解決可能です。

工事や作業などの現場は業種、業態に関わらずIT化が遅れている現状があります。日々の業務におけるその負担は個々の作業員の努力により補われています。導入いただいたSharepoは紙帳票のデザインをそのまま容易に電子化することが可能なため導入がスムーズです。現場側は電子化した報告書をタブレット端末からその場で瞬時に提出でき、過去履歴も閲覧可能です。管理側も最小限の時間差で報告書のデータ確認や内容に応じた指示などが行えます。現場に負担をかけず、運用の効率化が図れるSharepoは現場側と管理側をデジタルでつなく、新しい働き方の推進ツールです。

東芝のシェアレポは、タブレットや当社独自のICT技術を活用することで、点検・検針作業のデジタル化を実現します。現場作業員の負担や検針時の入力ミス、トラブル対応などを低減します。また、蓄積されたデータは、お客様の企業競争力の強化に寄与します。

詳細情報はSharepoホームページへ <https://www.toshiba.co.jp/cs/sharepo/>

シェアレポ

検索



・本サービスは、一定の作業効率化等の達成を保障するものではありません。
・本資料に掲載内容は、技術の進歩などにより予告なしに変更されることがあります。
・本資料に掲載している技術情報は、製品およびサービスの代表的動作・応用を説明するためのもので、その使用に際して当社および第三者の知的財産権その他の権利に対する保証または実施権の許諾を行うものではありません。
・本資料に掲載されている製品およびサービスを、国内外の法令、規則および命令により製造、販売を禁止されている応用製品に使用することはできません。

・本資料に掲載されている製品およびサービスの使用または、使用不能により生ずる付随的な損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、またはその他の金銭的損失を含むがこれらに限定されない)に関して当社は一切の責任を負いかねます。
・Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標および商標です。
・iPad、iOSは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
・ConMas i-Reporterは、株式会社シムトップスの登録商標です。
・お客様の組織名、役職はインタビュー当時のものです。

東芝インフラシステムズ株式会社

事業開発センター ビルDX推進部

〒212-8585 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34(ラゾーナ川崎東芝ビル) Tel 044-331-0706

本資料の内容は、2019年5月現在のものです。
2019-5(0)

TOSHIBA

シェアレポ簡易版

導入事例 Vol.2



ITの世界とは無縁であった工事現場でも、
データ化・IoT化のハードルを下げてくださいました

鉄道システム事業部 鉄道システム技術・建設部 担当部長 小谷 幸慈 様

東芝インフラシステムズ株式会社 鉄道システム事業部 鉄道システム技術・建設部

鉄道システム事業部は、人やモノを安全・快適・効率的に運ぶ鉄道交通システムにおける車両・電力・情報の各システムを事業領域としている部門です。シェアレポを導入された交通システム技術・建設部は、鉄道用電力設備の工事計画・施工管理業務を実施し、安全・安定輸送に貢献しています。

導入の背景

鉄道用電力設備工事というのは、終電から始発までの限られた時間で作業を行うため、工事責任者が短時間で、多くの業務処理を行なう必要がある。毎日の作業終了後に一般的なワープロソフトを使って作業日報を作成していたが、日々の業務の都合で作成が遅れることがあった。本社側は、工事管理する立場として人員の状況や工事の進捗状況をデイリーで工事責任者に負担をかけずに確認したいと考えていた。

従来からの課題

- 現場での管理業務が多岐にわたり、現場作業終了後の報告書作成に手間と時間がかかる。
- 本社側としては現場責任者に負担をかけず、日々の人員の状況や工事の進捗状況を確認したい。
- 現場管理業務をデジタル化したいが、使いこなすのに時間がかかり、カスタマイズも難しい。

「IT化のハードルを下げた」という意味で、とても画期的であったと思います。

管理

所長業務の自由度が上がり、従来に比べて効率化できていると感じています。

現場

鉄道システム事業部
鉄道システム技術・建設部
担当部長
小谷 幸慈 様

鉄道システム事業部
鉄道システム技術・建設部
鉄道建設担当 主務
五反田 三秋 様

1 管理側としての課題

現場に負担をかけず、日々の進捗状況を確認したい

現地からの報告業務の多くは紙の書類でした。現場側に負担をかけることも多く、現地管理業務を煩雑にしている側面がありました。一方で管理者側は、人員の状況や工事の進捗状況をデイリーで現場責任者に負担をかけずに確認したいと考えていました。

2 導入のきっかけ

現場ごとの環境に合わせて柔軟に対応できる点が魅力

類似のソフトは多数ありますが、ソフト側の制約があり、鉄道事業者様の規定に帳票フォーマットを対応させることができず導入を見送っていました。それに比べ、Sharepoは顧客の要望に合わせてフォーマットを簡単な操作で変更できます。運用の柔軟性と、モバイルアプリでiPadなどを使って気軽に使いこなせるという導入時のハードルの低さに魅力を感じました。

3 管理側としての導入効果やメリット

立ち上げが予想以上に早く順調で途切れることなくデータを蓄積・更新

操作説明は1日だけ現地で行ったのですが、事前の準備をしっかり行なってもらったこともあり、翌日以降一度も途切れることなくデータが蓄積・更新され、立ち上げが予想以上に早く順調だと感じています。特に、Sharepoの作り込みしやすい部分が、事前準備から生かされたのだと思います。

4 管理側としての今後の活用展開

他部門にもデータ化・IoT化を広め、効率化につなげたい

適用範囲を積極的に広げるために、工事作業管理だけでなく生産管理や品質管理など、現地のサプライチェーンにかかわるすべての分野への適用拡大を考えております。現地作業の実績データ分析をタイムリーに実施し、各種データを可視化して現場品質の向上につなげ、お客様からの信頼を獲得するため、積極的にデータ化・IoT化を推進していきたいです。

導入効果

1 効率的に報告業務が行うことができ、報告遅延もなくなった

2 現場に負担をかけず、タイムリーに現場の情報を確認できる

3 事前準備だけでなく、導入後の変更にも即時対応できスムーズな運用を実現

1 現場側としての課題

業務の都合から発生する日報作成の遅れ

現地管理業務は多岐にわたります。朝礼から始まり、TBM/KY、現場巡視・施工状況のチェック、部材の受入、施工業者との工程調整や発注者様との打合せなどがあります。その合間を使って報告等の事務作業を行っているのですが、業務の都合で日報の作成が遅れることもありました。

3 現場側としての導入効果やメリット

報告遅延がなくなるだけでなく、業務効率が飛躍的に向上

Sharepoにしてからは、当日の夕方に端末(iPhone)で入力しています。現地業務の隙間時間を活用し、いつでもどこでも入力できるので、従来に比べて業務の自由度が上がり、効率化できていると感じています。入力作業で短縮できた時間は5~10分ですが、限られた時間を有効に使えるので報告遅延もなくなり業務効率は飛躍的に向上しました。

2 導入後における現場側の感想

システムの操作感が直感的で覚えやすく、現場でストレスなく使える

今までは、PCを使い表計算ソフトで業務日報を作成・出票し、本社への報告・情報共有は、メールで週報・月報として報告していました。表計算ソフトとメールでの運用からSharepoに切り替えた際は、システムの操作感が直感的でストレスなく使うことができました。通常のパッケージソフトと比較し、スタートアップが早いこともメリットとして感じています。

4 利用して実感した便利さや今後の展開

運用変更や新たな業務にも即対応、導入後も様々な業務への活用がひろがる

電子化して入力しにくい部分の変更も、部内の担当者と相談して即対応できるのが良かったです。また、地下などの通信が出来ない場所でも、オフラインで利用できるのはとても便利です。今後の展開としては、写真撮影と記録が簡単にできるので、安全パトロールへの利用や、施工業者の指摘事項の記録などへの活用も考えています。

導入サポート

クラウド上にお客様の環境を用意導入に向けた事前準備の負担を軽減



トライアルによる試運用を経て段階的な展開で導入をサポート



導入支援サポートにより現場の要望を取り入れながら理想的な運用構築を支援

